わが子の学びはどう変わる？

次期学習指導要領 保護者向けガイド（審議まとめ 2026年10月5日にもとづく。告示前の方向性です）

3行でいうと

1. 全面実施は小学校2030年度・中学校2031年度・高校2032年度入学生からの見込みで、2028年度ごろから一部を先に始める「先行実施」もあります（日程は今後変わる可能性があります）。
2. 学ぶ内容を大きく増やすのではなく大事なことに絞り込み、知識をつなげて自分の言葉で説明できる「深い学び」と、情報・AIを正しく使いこなす力を、小・中・高を通して育てる方向です。
3. 家庭では、学び方を自分で工夫する力、考えを話す・書く習慣、AIの答えをうのみにしない姿勢をそっと支えることが、審議まとめの方向性に沿った関わり方です。

小学生の保護者の方へ

いつから：小学校は2030年度（令和12年度）から全学年で新しい学習指導要領になり、新しい教科書も2030年度から使われる見込みです。その前の2028年度から、総合の「情報の領域」や、授業時数を学校が調整できる制度などを先に始められるようにする方向です。2026年度に小1・小2のお子さんは小学校の途中から、小3・小4のお子さんは中学校の途中から新しい学習指導要領で学ぶ計算です（日程は今後変わる可能性があります）。

- **総合の時間に「情報の領域」ができる**：小学校の「総合的な学習の時間」は「総合的な探究の時間」という名前に変わり、新しく「情報の領域」が加わる方向です。3〜6年生で、タブレットなど情報技術の使い方、安全な扱い方、しくみを順を追って学びます。時間は3・4年で各学年最大30コマ程度、5・6年で最大35コマ程度と見込まれています（1コマ＝授業1回分。正式な時数はこれから決まります）。
- **英語は「音声で慣れてから読む・書く」を大切に**：3・4年の「外国語活動」、5・6年の「外国語科」という今の形は続きます。音声で十分に慣れ親しむ段階から、読む・書くへとなめらかにつなぐよう段階的に示し、日本語と英語の語順の違いに気づかせて中学校の文法につなげます。習った表現を何度も繰り返し使うことの大切さも示されています。
- **算数は割合・比・分数のつまずき対策**：割合・比・分数は、理解が十分でない子が多いとして、内容や教える順序を見直す方向です。前に習ったことがどれくらい身についているかを確かめることの大切さも指摘されています。算数・数学全体で、筋道を立てて説明する学びを重視します。
- **国語は手書きの書写を引き続き重視**：タブレットでの文字入力が増えても、文字を正しく書く力はすべての学びの土台だとして、小学校では手書きの書写を丁寧に指導します。話す・聞く、書く、読むの学習は、話や文章が社会で果たす役割（「話や文章の機能」〔仮称〕）でつなげて学ぶ形に整理されます。
- **生活科・理科は体験と日常のつながりを重視**：1・2年の生活科は、体を使った体験と多様な表現（話す・描くなど）を行き来する学びを目標の中心にする方向です。理科は内容を物理・化学・生物・地学の4分野で整理し、分野をまたぐ身近な課題を考える「理科と日常生活」（仮称）が新しく設けられます。

家庭でできること：「今日わかったこと」を自分の言葉で話してもらう／家庭学習は「何を・どれだけ」を一緒に決めて振り返る／外遊びや自然・生き物とふれあう体験を大切に／調べたことは「どこに書いてあった？本当かな？」と一緒に確かめる／英語は「聞いて楽しむ」ことから／お子さんの「好き」を話題にする

中学生の保護者の方へ

いつから：中学校は2031年度（令和13年度）から全学年で新しい学習指導要領になり、新しい教科書も2031年度から使われる見込みです。2028〜2030年度は先行実施の期間で、授業時数の調整制度は2028年度から、新教科「情報・技術科」は2029年度から段階的に始められるようにする方向です。いま（2026年度）の中学生は全面実施の前に卒業しますが、在学中に先行実施の一部に出会う可能性があります（日程は今後変わる可能性があります）。

- **新しい教科「情報・技術科」ができる**：今の「技術・家庭科」の技術分野が、新しい教科「情報・技術科」になる方向です。情報技術と、情報を土台にしたものづくり（生産技術）の2つの領域で学びます。必要な時間は1・2年で各学年最大70コマ程度、3年で最大35コマ程度と見込まれています（今の技術分野の内容を含む数字で、正式な時数はこれから決まります）。
- **「家庭科」が独立した教科に**：技術・家庭科から家庭分野が分かれ、独立した「家庭科」になる方向です。小・中・高を通して領域が「家族・家庭と生涯発達」「食生活」など5つ（いずれも仮称）に整理され、お金の管理と消費者としての権利などをまとめて学ぶ領域が設けられます。
- **英語は文法と単語の難しさを適正に**：中学校の文法事項は、よく使うものなどを具体的に示して指導の対象をしぼり、難しさを適正にする方向です。国が「基盤語彙リスト」を作って教科書の単語の難しさや選び方をならします。「社会的な話題」は、生徒が自分と結びつけて考えられる「身近な社会的な話題」に改められます。授業を生徒の理解に応じた英語で行う方針は続きます。
- **数学・理科に「ガイダンス」が新設**：数学では、数学の全体像や社会・仕事とのつながりを学ぶ「数学ガイダンス」が新しく設けられ、証明など筋道を立てて考える学習を重視します。理科では「科学とは何か」や研究倫理を学ぶ「科学ガイダンス」が新設されます。
- **社会は分野をまたぐ単元と情報の真偽を確かめる力**：地理・歴史・公民をつなぐ「分野横断」の単元が設けられ、地域調査などはそこでまとめて扱う方向です。ネットやAIの情報が正しいかを確かめる「情報の妥当性の確認」の技能や、模擬選挙などの主権者教育も重視されます。教科書の用語は精選する方針です。

家庭でできること：テスト勉強の「やり方」を一緒に振り返る／身近な社会の話題について家族で意見を交わす／AIを使ったら「自分の言葉で説明できるか」を確かめる／ネットの情報は「誰が・何のために」発信したかを考える／家の仕事やお金の使い方を一緒に考える

高校生の保護者の方へ

いつから：高校の新しい学習指導要領は2027年度末に告示され、2032年度（令和14年度）の入学生から学年ごとに始まり、2034年度に全学年がそろう見込みです（教科書も2032年度から学年ごと）。単位のしくみの柔軟化は2029年度か2030年度に先行実施する方向です。いま（2026年度）の高校生は対象外で、2026年度に小学4年生以下のお子さんが新しい高校教育の最初の学年になる計算です（日程は今後変わる可能性があります）。

- **単位の数え方が細かくなる（1単位＝17コマ）**：1単位を35コマで数える今のしくみを、50分×17コマの「新単位」に改める方向です。卒業に必要な単位は74単位から148新単位になりますが、数え方が細かくなるためで、学ぶ量が倍になるわけではありません。週30コマという標準も示さないことにし、学校が時間割を柔軟に組めるようにします。
- **学校ごとに教育課程の特色が出やすくなる**：必ず学ぶ科目（必履修科目）も含めて、学校の判断で科目を組み替えたり、一定の範囲で単位数を減らしたりできるようにする方向です。科目を組み替える場合は、その趣旨や内容を公表し、生徒・保護者に説明することが要件の一つとされています。

- **英語は科目名が変わり、B2相当以上なら免除の道も**：「英語コミュニケーション」は「英語コミュニケーション（総合）」、「論理・表現」は「英語コミュニケーション（発信）」に変わる方向です（いずれも仮称）。学ぶ量は今と同じです。CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のB2レベル相当以上を証する外部試験に合格し、振り替え先で英語の力を発展的に伸ばせるなどの要件をすべて満たす場合に、学校が実施できれば「英語コミュニケーション（総合）Ⅰ」を免除し、上位の英語科目や外国語に関する学校設定科目などに振り替えられるようにする方向です。
- **数学Ⅰに「社会を読み解く数学」、数学A・B・Cは1科目に**：必履修の数学Ⅰに、実社会の場面をもとに学ぶ「社会を読み解く数学」と「数学ガイダンス」が加わり、最大8新単位程度になる方向です。数学A・B・Cは1つの新しい選択科目（「数理活用」〔仮称〕などの案）にまとめられます。
- **情報はAI・データサイエンスを強化**：情報Ⅰ・情報Ⅱの構成は維持し、文系・理系を問わず全員が数理・データサイエンス・AIの基礎的な力を身につける方向で内容を充実させます。AIやデータサイエンスに関する内容を新しく加え、実社会の課題を解決する学習も重視します。

家庭でできること：高校選びでは各校の「教育課程の特色」も見る／「好き」や関心を探究のテーマとして応援する／レポートやAIの使い方は「自分で考えた跡」を大事に／文系・理系を問わず、数学やデータの学びを続けることを応援する／外部試験は「目的」を話し合ってから／選挙や地域の課題について話題にする

出典：中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省資料。告示前の方向性で、今後変わることがあります。｜原田英語.com 次期指導要領ナビ https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/（2026年11月4日 版）